

平成31年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査結果 課題分析表 (中学校)

教科ごとの「教科の観点」における平均正答率の比較

瑞江第二中学校

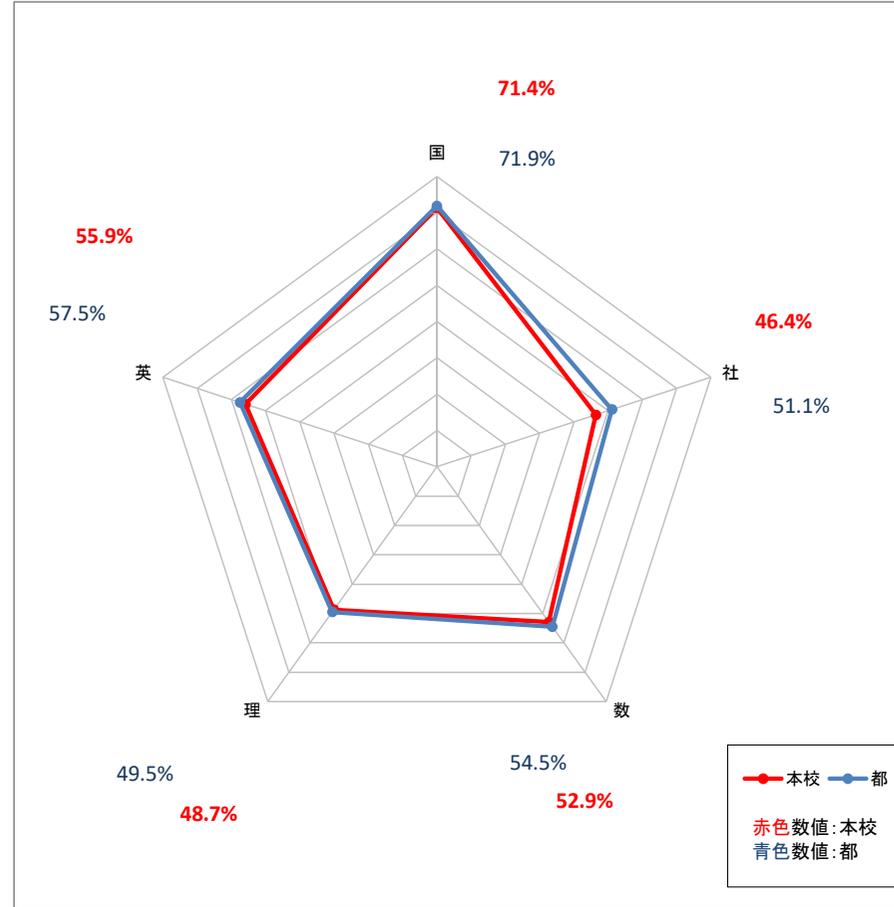
国語	教科の観点				教科の合計
	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	
東京都	74.8%	58.9%	79.3%	69.1%	71.9%
本校	73.6%	56.6%	79.5%	68.6%	71.4%
都との差	-1.2	-2.3	0.2	-0.5	-0.5

社会	教科の観点			教科の合計
	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解	
東京都	48.7%	61.9%	41.1%	51.1%
本校	44.4%	55.9%	37.3%	46.4%
都との差	-4.3	-6.0	-3.8	-4.7

数学	教科の観点			教科の合計
	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	
東京都	31.4%	62.4%	63.3%	54.5%
本校	28.3%	62.7%	59.9%	52.9%
都との差	-3.1	0.3	-3.4	-1.6

理科	教科の観点			教科の合計
	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解	
東京都	43.9%	60.2%	47.4%	49.5%
本校	42.1%	62.2%	45.8%	48.7%
都との差	-1.8	2.0	-1.6	-0.8

英語	教科の観点			教科の合計
	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解	
東京都	46.1%	62.4%	59.2%	57.5%
本校	42.7%	56.2%	61.2%	55.9%
都との差	-3.4	-6.2	2.0	-1.6



《都との比較にみる本校の状況》

国語 都の平均と比べ、「話す・聞く」「書く」「言語についての知識理解技能」の三つの観点で下回っている。特に、書くことに苦手意識がある生徒が多い。

社会 「資料活用の技能」が都の平均を大きく下回っている。また、「社会的事象についての知識・理解」が低いことから、思考や技能を養う際に活用する、基礎的な知識の習得が課題である。

数学 「数学的な技能」の観点では、都の平均を上回っている。昨年度の課題であった「数量や図形などについての知識・理解」の観点は、-9.0から-3.4と都の平均に近づく結果となった。

理科 「観察・実験の技能」については、と標準を上回っているが、「科学的思考」「知識・理解」では、下回っている。実験そのものや、実験レポートなどの作業はよくやっているので、授業を想起して答えられるところは多いと思うが、基本用語は定期考査が終わるとすぐに忘れてしまう傾向があると思われる。

英語 都の平均と比べ、知識・理解の観点は上回っているが、表現と理解の能力は平均を下回っている。特に長文を読むことに苦手意識がある生徒が多い。

《授業改善のポイント》

国語 毎時間の授業で、漢字練習を必ず取り入れる。さらに、どの単元でも、自分の意見を文章にして「書く」ことを大事にする。

社会 知識を定着させるために、小テストを定期的実施する。また、e-ライブラリを用いて学習する時間を設けることで、興味をもって知識を学習できるようにする。

数学 昨年度の課題をもとに数学科で授業改善等話し合っている。授業では、ICTを取り入れた授業を検討している。また、基礎・基本を定着させるために既習事項の演習をしている。

理科 基本事項が定着するように、授業でも振り返りの場面を多く取り入れているが、確認テストなどを定期的に行い、用語・基礎公式の徹底を図りたい。また、「科学的な思考」面では、「なぜその現象が起こるか」ということを徹底するとともに、授業内でも問題演習の時間を多めにとれるようにする。

英語 教科書本文に対する英問英答を多く取り入れる。長い文章については、概要把握と精読をバランスよく行う。単元テストで初見の英文を読む。

《家庭・地域への働きかけ》

家庭学習の習慣化をねらいとして、全学年「家庭学習ノート」の取組を行っている。今年度からは「家庭学習ノート」の具体的な取り組み方法を提示した。家庭学習ノートに①めあて②日付③学習時間④学習内容⑤学習内容を自分の言葉で説明する⑥振り返り、というように具体的に学習することで、学力の定着を図る。年度初めの保護者説明会でも、家庭学習の重要性を伝えている。また、定期考査前の学習計画表に、確認印や一言を記入していただき家庭における協力をお願いしている。

